



「誰かのために」が生む成長

副校長 市川 愛美

夏の体験が実りの秋につながる

少し長い夏休みが終わり、学校がいよいよ始まりました。元気いっぱいの子供たちの顔を見ることができ、安心しました。皆、それぞれにいい笑顔を見せてくれて、この夏休み、楽しい経験や良い体験をすることができたのだろーと感じました。

学校でも夏季休業中に、5・6年生それぞれの宿泊行事があり、貴重な体験をすることができました。



6年生は8月24日(日)から26日(火)まで、日光高原学園に行きました。6年生は、自立・相手意識・挨拶を目標とし、いつでも元気な返事で目標に向かう姿を見せた3日間になりました。また、リーダーを中心に互によく声をかけ合い、協力し、相手意識をもった行動が見られ、引率の教員が感心していました。例えば、キャンプファイヤーのマイムマイムでは、スピーカーの音が小さく、聞こえづらかったハプニングがありましたが、皆で盛り上げようと大きな声で歌い、楽しく踊るなど素晴らしい思い出にすることができたそうです。帰校式でもやりきったいい顔をしていました。9月からも猿楽小のリーダーとして、輝いてくれることと期待しています！

5年生は、7月20日(日)から22日(火)まで、金山姉妹校交流(金山自然体験教室)に行きました。交流会では金山小の児童の熱い思いがあふれる発表に感動し、立山ハイキングでも共に絶景を堪能するなど、貴重な時間を共に過ごし、互いを思いやる様子がたくさん見られました。

夏休みの休養や学びも力にして、実りの秋にしていきたいと思います。

‘平和’と‘普段離れている友達’に想いを

金山は、第二次世界大戦のときに猿楽小の子供たちが学童疎開をした場所です。そのときに大変よくしていただいたので、疎開した児童たちが大人になったときに尋ねたことがきっかけで、姉妹校交流に発展しました。今でも金山に行かせていただくと、地元の方々が「猿楽小の人たちは大切にしたい」「猿楽小の人たちに喜んでもらいたい」という理屈なしの大きな愛情をもってくださっていることを強く感じます。金山の人たちも決して余裕があったわけではなかったであろう戦時中に、このような愛情をかけていただいたことは、辛い気持ちだった当時の猿楽小の子供たちにどれだけ救いになったかと思いを馳せます。8月16日の新聞にも交流の様子が掲載されました。(保護者の方にはHome&Schoolでお知らせしました)

猿楽小の子供たちは、金山との姉妹校交流を通して、平和について学習しています。

今年は戦後80年の節目のときです。この夏にテレビで戦争についての番組を見るにつけ、金山のことを思い出しました。普段離れている人でも、互いを大切な人として尊重し合う気持ちは平和の大切な要素です。そういう意味でも金山小との姉妹校交流は、相手のことを思いやるという大切な想いを学ばせていただく貴重な機会となっています。

9月12日(金)・13日(土)には、いよいよ金山の方を猿楽小でお迎えします。特に交流を深める5・6年生は、どうしたら喜んでもらえるか考えながら同年代をお迎えする貴重な体験ができる機会です。猿楽小で今年度特に力を入れている「温かいコミュニケーション」や「相手意識」が育つ絶好の機会です。

また、PTAの方々、金山を支える会をはじめとした地域の方々にも多大なる御協力をいただいております。本当にありがとうございます。

平和と友情を大切にする気持ちを育み、両校児童・全ての関係者にとって、忘れられない金の思い出となる2日間にしてまいります。

